

文京区基本構想推進区民協議会  
子育て・教育部会  
(第2回)

日時：平成28年7月22日（金）  
18時30分～20時30分  
場所：文京シビックセンター地下2階  
産業とくらしプラザ研修室

文京区企画政策部企画課

## 第2回 子育て・教育部会 会議録

「部会員」

部	会	長	源	由	理	子
部	会	員	牛	嶋		大
部	会	員	長	岡	麗	奈
部	会	員	浅	見	理	絵
部	会	員	石	倉	毅	典
部	会	員	弘	世	京	子
部	会	員	中	村	雄	介
部	会	員	出	井	久	之
部	会	員	渡	部	大	祐

「幹事等」

企	画	政	策	部	長	吉	岡	利	行
子	ど	も	家	庭	部	椎	名	裕	治
保	健	衛	生	部	長	石	原		浩
教	育	推	進	部	長	久	住	智	治
企	画	政	策	部	企	加	藤	裕	一
企	画	政	策	部	政	高	鳥	康	広
企	画	政	策	部	財	大	川	秀	樹
総	務	部	職	員	課	辻		政	博

○源部会長 それでは、時間が参りましたので始めさせていただきます。皆さん、こんばんは。今日は2回目の子育て・教育部会でございます。今日はちょっと盛りだくさんの審議事項があるんですけれども、2時間よろしく願いいたします。

それでは、事務局のほうから。

○加藤企画課長 それでは、私のほうから、本日の出欠状況について、ご報告させていただきます。加藤部会員から欠席の御連絡をいただいております。また、牛嶋部会員につきましては、多少遅れるようですので、部会のほうは進めさせていただきたいと思います。

それと、配付資料、今回2回目なので配付したものに付きましては、確認しませんが、本日使う資料だけ、事前にお知らせしたいと思います。

郵送で配付させていただきました分野別部会資料第2号、「基本構想実施計画（29～31年度）の今後3か年の方向性及び指標（案）について」、これまで使っていたもの、これを使います。

もう一つが、分野別部会資料第3号、A3で、こういう形でグラフになっているものがありますけれども、こちらについても本日検討の材料にしたいと思っております。

また、席上に、「まち・ひと・しごと創生総合戦略評価表」、別紙と書いてあるものが本日置いてあります。これは、事前に郵送した分野別部会資料第4号と同じものですが、差し替えです。中身が若干変わっていますので、分野別部会資料第4号の後ろに、この別紙というのが付いておりまして、こちらのほうを差し替えでお願いいたします。

それと、もう一つは、基本構想実施計画の体系、ダイヤモンドが付いている表ですけれども、こちらのほうも本日参考で使います。

資料については主にその4点を使いますが、それと併せて、席上にあります、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、こちらも本日使って検討したいと思っております。

以上、5点が本日使う資料になっております。もしこの5点がお手元にないようであれば、事務局のほうまで言っていただければ御用意ができますが、いかがでしょうか。分野別部会資料第2号、第3号、第4号、それとまち・ひと・しごとと、こちらの冊子になります。

それと、記録ですけれども、1回目と同様に、お名前を記載した上で、全文記録という形で公開させていただきたいと思っております。

以上です。

○源部会長 ありがとうございます。

それでは本日は、お手元の次第にありますように、四つ、今資料の御説明もありましたけれども、四つの事柄を意見交換してまいりたいと思います。

まず最初は、基本構想実施計画の残りの一つがありましたよね。青少年の健全育成という。そちらのほうで、同じようにワークショップ形式で行います。その次に、基本構想実現度評価の実施状況、昨年度の評価についての意見交換をいたします。その次に、まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理に関する意見交換、そして最後に、行財政改革と、少し盛りだくさんですが、時

間を切ってやりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず最初に、前回の1回目の振り返りということで、こちらのほうにございます。

こちらの子育て支援に関しましても、教育に関しましても、3か年の方向性、それから指標ということで、いろいろ具体的な御意見を出していただきました。子育て支援に関しては、そもそも子育て支援という定義というのは何なのというところの全体像の話から、いろんな取組、特に妊婦全数面接、乳児家庭訪問に関する事、それから私立保育園に関する事、という取組に関する意見もいただきました。

指標に関しましては、それぞれの指標でいただいたんですけども、どちらかというところ、もっとうこういう側面を見たほうがいいんじゃないのと。訪問率というだけじゃなくて、訪問することによってどういう変化があったという、例えば、妊婦さんにどういういいことがあった、お母さんにどういういいことがあったという、そういうアウトカムというのを見る指標というのが必要なんじゃないかということなども含めまして、いろんな指標を捉える側面というものに関する意見がございます。

更に、ここの塊はアンケートの方法ですね。これは実際に皆様がアンケートを受けられたということで、いろいろ感じるどころがあったということで、大変いい御意見をいただいていると思います。

それから、教育に関しましても、同じように今後3か年の方向性ということで、教育の取組に関する、どちらかというところ、結構御質問が多かったと思います。こういうことをちゃんとやっているかどうかというふうな、御質問があったかだと思います。それプラス、指標の三つがございます。

指標に関しましても、こちらの子育て支援と同じように、もっとうこういうところを見たほうがいいんじゃないかというふうなもの、と同時に、特に不登校に関しましては、その捉え方というのを、不登校等に至るまでの、その前の段階というものも丁寧に見るべきじゃないのかとか、不登校を減らすということを目標にするのは、ちょっとどうかとか。自立あるいは復帰、学校復帰というものは違うものであるというふうな大変貴重なご意見もいただいております。

こういったご意見を前回いただきました。これに関しまして、担当部長さんのほうから何か追加の情報とか、コメントがございましたらお願いいたします。

**○久住教育推進部長** 一つだけ。教育の関係で、国語と算数、若しくは数学だけ、なぜ指標なんだということで、ほかの教科の話で、確認が取れないという御回答だったんですけども、全国の学力調査については、国語と算数、数学が毎年行われていて、その他の教科については、毎年行われていないんです。例えば、英語に関しても5年に1回であったりということになるので、経年を追っていくということでは、国語と算数若しくは数学といったところではないと、経年として追えない状況があるということから、この二つになっているということです。前回もちょっとそんなような話を。

○源部会長 比較対象ということでございます。ありがとうございます。追加の情報をいただいております。

これらにつきましては、本日今から行う、青少年の健全育成というのと併せて、皆さんの意見として、またさらに担当部の方たちの所見をいただきながら、どのように対応していくかというのを議論していくことになるかと思えます。

よろしゅうございませうか、では振り返りということでした。この部会は今週続けてやっていますので、多分覚えていらっしゃると思うんですけども。その続きということですが、同じように、青少年の健全育成ということについて、皆さんのご意見をいただきたいと思います。

カードが2枚、色がございまして、ブルーグリーンみたいな、こちらに今後3か年の方向性について、今からご説明いただきます。赤は指標に関するもの、ちょっとわかりにくかったら、どちらの色でも結構でございますので、ご意見をいただきたいと思います。

それでは、部長さんのほうからご説明をお願いいたします。

○久住教育推進部長 それでは、改めまして教育推進部長の久住でございます。よろしくお願いいたします。

分野別部会資料第2号の10ページをお開きください。青少年の健全育成の項目です。将来像としては、ここに書いてあるように、「地域で人とかかわりを学びながら、光る笑顔の青少年が育つまち」としています。

現状と今後3か年の方向性については、現状については、二つの視点から言及をしています。一つは、地域社会の連帯が希薄になるということと、子育て家庭の転入が増えていますので、人口が増えているということだとか、情報技術の更なる進展に伴ってインターネットによるコミュニケーションが常態化をする中で、なかなか子どもたちが集団で遊び切るといった状況が少なくなってきたと。

そういった中で、三つの方向性をお示ししています。いわゆる地域の団体の活動の実施をするということと、その中で地域の大人や子ども同士でふれ合う機会をつくっていくということ。そして、地域の団体の事業そのものに青少年が参加するだけではなく、事業の計画段階から参画をする機会を増やしていこうということで、方向性を一つ考えています。

もう一つは、地域の中で青少年を温かく見守る取組を増やしていきたいというふうに思っています。

最後の三つ目が、子どもたちの自主的な活動を支援していくということで、青少年プラザの事業等を通して、こういった活動を行っていききたいと思っています。

11ページからが、三つの指標を掲げています。「第3章計画事業」の資料をご覧いただければおわかりいただけると思うんですが、1-1-3で掲げた青少年の健全育成の事業そのものは、再掲という項目を除くと、6の事業しかぶら下がっているものが今のところないので、なかなか多様な指標の設定というのは難しいところではありますので、この中から三つの事業を選んで指

標化をしています。

一つは、今後の方向性にも関わる一つ目として、「青少年健全育成会やNPO等が実施する事業への青少年の参画者数」を掲げています。これが地域の大人や子ども同士の触れ合う機会の提供の充実としての指標になるだろうというふうに考えています。

それから、地域で子どもたちを温かく見守る活動については、「子ども110番ステッカー事業の協力件数」を掲げています。子ども110番のステッカーについては、外に貼っていただくことで、子どもに何かあったときに、その家庭に安心して、若しくは事業所に安心して駆け込めるような事業ということで、毎年小学校のPTAの皆さんにご協力いただきながら、こういったステッカーの貼ってある、協力をしているマップづくりなども行っていただいているところです。

おめくりいただきまして、12ページをお開きください。

最後が青少年プラザ、いわゆる通称名b-1a bとしております利用者人数と、そこでの利用者の満足度を掲げています。青少年プラザについては、お陰さまで非常に青少年の皆さんからも好評をいただいているところであります。b-1a bの利用の促進を図るとともに、毎年2%の増加、そして利用者のアンケートでも満足していると回答する割合を毎年1ポイントずつ増加をさせていくということで、三つの指標を立てております。

青少年の分野についてのご説明は以上です。

**○源部会長** ありがとうございます。今のご説明で何か、ちょっと事実関係の確認とか質問とかも少しありましたら。

すみません、b-1a bは何の略ですか。

**○久住教育推進部長** 文京ラボラトリーという。

**○渡部部会員** 私も同じ質問で恐縮なんですけれども、b-1a bって、具体的にどんなことをやっているのですか。

**○久住教育推進部長** b-1a bというのは、教育センターの中にあって、中学生と高校生の活動の場所で、小学生の利用はできないんです。

運営事業者については、委託事業として、NPO法人のカタリバというところに委託をしています。このカタリバというのは、様々いろいろ学校に行ったり何かして、ワークショップをやりながら、自分たちのキャリアプランを一緒に考えたりする若手の人たちで、その中には本部だけではなくて、中高生スタッフというボランティアスタッフも抱えている中での運営をしています。その青少年プラザ運営の委託をして、青少年、いわゆる中学生、高校生が通ってくるというので、具体的には小ホールであるとか、音楽スタジオなんかも設けています。

あと、教育センターの会議室を借りて、いわゆる自習室みたいなものも運営も行っていきます。自習したい子はそこでやって、大学生がそれなりにわからないところがあれば、その大学生が教えてくれるような取組も行うということで、小学生ではない、中学生や高校生が身近に感じる大学生であったり、ちょっと背伸びをすればその年代になるなという人たちの交流の中で、自分た

ちがいろいろな企画を行いながら、展開をしていくということです。児童館のちょっと大きい版みたいなものをイメージしていただくと非常にわかりやすいかなと思います。

○源部会長 よろしいですか。どうぞ。

○長岡部会員 110番ステッカーですけれども、あれはPTAだけにしか配付していないんですか。

○久住教育推進部長 PTAに配付しているのではなくて、地域の皆さんに協力員としてお願いをしています。ですからコンビニでも、貼っていただいているところなんかもありますので、そこはお願いをして、地域地域にありますので、学区域の中で、子どもたちがどこに貼ってあるかわからないと、なかなか駆け込んでもいいよといっても、なかなかできないので、それぞれの小学校のPTAの中で、子どもたちとまち歩き探検だとか、マップづくりなどをして、こういうところに貼ってあるよといったようなことをやっています。PTAの方だけではないです。PTAの方に拡大のお願いなどもしていますので。

○長岡部会員 毎年もらってくるんですよ、娘が。110番のシールを貼ってくださいというのを。でもマンションで、扉が供用部だから貼れないじゃないですか。そういった場合はどうするのですか。

○久住教育推進部長 それはなかなか難しいと思います。

○長岡部会員 例えば、管理会社のほうに貼ってもらうのを委託するとかという、そういう活動とかもされているんですか。

○久住教育推進部長 そのマンションの管理の中でお願いできれば、それはそれでやっていただいています。

○長岡部会員 それは個人的にやるんでしょうか。

○久住教育推進部長 そうですね、はい。

○源部会長 そちら辺は、アイデアで書いていただければと思います。ありがとうございます。

○出井部会員 どんなマークなんですか。すみません、このステッカーというのは。見たことがないんですけれども。

○久住教育推進部長 黄色い下地に、ピーポー君が貼ってあるもので、このくらいの大きさのものがあって。

○出井部会員 ピーポー君。じゃあ警察がくれるんですか。これは。

○久住教育推進部長 警察との協力の中で作っているという。

○中村部会員 私も40年前の子育てのことを今思い出したりしたんですが、ちょうど息子が中学生、高校生くらいになったときに、本当に夜なべで親のほうも手を温めた。それはどういうことかということ、周りのお友たちが塾なんか行った。うちの息子は行かなかった。すると1人になってしまう。そうすると間が持てないわけね。そういうことを思い出しながら、今の部長さんのお話を伺っていて、きめ細かくこういう配慮をしていただけて良かったんだなと思って、それが

一番にいい時代になったんだなど、本当に思います。

生徒さん、そこに参加する子どもさんたちも個性がありまして、当然、ちょうど14、15歳ころという、個人個人の成長の度合いというのが激しく違いますね。それに応じるということは大変なことだと思いますけれども、やっぱりきめ細かいそういう配慮というか、そういうものをしていただきたいなということ、私たち子どもの体験を思い出しながら考えました。

○源部会長 中村さんも是非それを書いていただければと思います。ありがとうございます。

それでは皆さん、どうぞ。何でもご意見を書いてください。方向性に関するものと、指標と、色を分けられるのなら分けて書いていただいて。

(意見抽出)

○源部会長 それでは皆さん。b-1 a bをご存じでしたか。

○長岡部会員 中学生になるので。

○源部会長 そうですね。

それでは、また皆さんにご意見を伺って、意見交換したいと思います。

こちら3か年の方向性に関してかなと思いますけれども、こちらは多分、文章のところだと思いますけれども、4行目というのは、常態化した中であっても。

○弘世部会員 発言してよろしいですか。

○源部会長 どうぞ。

○弘世部会員 この囲まれた3か年の方向性というものの4行目辺りで、確かに情報技術の更なる進展に伴いという後なんですけれども、そういう環境が常態化している。子どもたちが集団での遊びや活動の中で社会性を身に付ける機会が減少しているとあるんですが、私個人の感覚では、そんな中であっても子どもたちは社会性を身に付けようと、昔と変わらず、いろいろなものにしがみ付いているように思うんです。

それを大人側から、機会が減少している、減少させていると思うので、ちょっとその表現については、その中であって、子どもがどうなのかというふうな前向きな表現でもいいのかなと。だから、企画したいし、提供したいし、考えていきたいということなのではないかなと思います。

○源部会長 なるほど。今のは、この四角ですね。2の中の四角の二つ目の段落だと思いますけれども、情報技術の進展でインターネット導入のコミュニケーションが常態化していて、子どもたちが社会性を身に付ける機会が減少していますと。

○弘世部会員 それは事実かもしれないんですが、その中であっても、わずかな機会やチャンス子どもとしては探していると思うんです。

○源部会長 なるほど。それは例えば、そういうインターネットも含めてみたいところですか。それともそれ以外の場で。

○弘世部会員 それは新しく、もう止めることなく、隣り合ったものとして、そこに新たに加わったものではあるけれども。



○源部会長 もっとそういう中で、一生懸命子どもたちがやっているということを表したほうが、その中で区として、どういうふうに支援できるかという表現のほうがいいんじゃないかというご提案です。

○弘世部会員 という印象を受けました。

○源部会長 大変おもしろいですよね。もっと積極的な表現がいいんじゃないか、というご提案でした。ありがとうございます。

もう一つもそうですね。青少年健全育成会と、そのどちらですか。

○弘世部会員 その下の段です。「そこで、青少年が、」という段落です。青少年健全育成会等ということなんですけれども、青少年健全育成会はあまり耳にしたり、行事に参加する機会が少ない方もいらっしゃるのかもしれませんが。地域には少年野球やサッカーなど、子ども同士が縦の関わりを持ちながら大人が指導や育成、見守りの形で熱心に取り組んでいる活動が多々あると思います。そこも意識していいのではないかなと、もう少し文章の中でそれが見えてきてもいいんじゃないかなというふうに思いました。

○源部会長 青少年健全育成会の活動は、等に入っているかもしれないけれども。

○弘世部会員 羅列するのがよいとは思わないんですが、例えば、少年野球やサッカー、それ以外、スポーツだけに関わらず。

○源部会長 もう地域の中で、いろいろやられているものに関してもとというものがある。

○弘世部会員 長年脈々と続いていることも、多々あるんじゃないかなというふうに感じました。

○源部会長 そういうものに関し何か一緒にやっていくとか、支援していくとか、そういう主体も必要なんじゃないかということですね。

○弘世部会員 そうですね。支援している大人もかなりの人数がいるように思います。

○源部会長 というご意見です。皆さん、いかがですか、今の。ご意見とかありますか。

○石倉部会員 よろしいですか、指標のところの（1）です。それも同じような意見でして、要は、今回指標として挙がっているのは、恐らく区のほうで推進している青少年育成会がありますので、捕捉しやすいという意味でそれを出されているんだと思うんですけれども、今、弘世部会員もおっしゃったように、いろんな地域での活動があります。私も、町内会の青年団に入っているんですが、その中でやはり若い人たちが一緒になって盛り上げていこうという活動にやっぱり参画している方も多いので、そういった意味でどこまで区として捕捉ができるかという問題はありますが、そういったところも含めて指標の中に盛り込んで、総合的に評価していただいたほうがいいのかと思って、その意見を書きました。

○源部会長 こちらを読みますと、青少年健全育成会以外が主催する事業に、青少年が参加している実態はどの程度把握できているのかということで、いろんなことを実際にはやっているということも、視点に入れてほしいと。いわゆる協働ですよ、区がやっているものもあれば、区民のほうもやっている。そんなふうなことですね。ありがとうございます。

ほかに何か今のご議論に関連するところがありますか。よろしいですかね。また出てきたら。ありがとうございます。

次は、遊びながら学ぶ、ですよね。

○出井部会員 今ちょっと遊びが足りない。要するに学校教育が大学に入るための教育という形で、まず遊んで勉強をするということが、学問が勉強だということになっているということで、地域性とかそういうのを理解しなくて生活できちゃうという。だからやっぱりもうちょっと学校の中で、理科、社会もそうなんですけれども。

○源部会長 こっちとも関連しますね。

○出井部会員 今、理科、社会というのも加わっていないというのが、要するに受験が国語と算数でオーケーだということ。昔は自分たちで理科、社会、全部やったんですね。4教科。だからどっちかという、その辺は逆に言って、国語と算数でいいんですね。社会に出ると、日本語がしゃべれて算数ができれば。でも結局、地域のことを知るために、理科、社会という。理科は自然科学で要するに生活に必要なものを教えてくれるわけですよ、実際は。だからそういう教育が不足しているので、何しろそこで健全育成ということのお題目のほうが頭にきちゃって、もうちょっと底辺のところを統一したほうができるんじゃないかなと思います。

○源部会長 こちらの文京区の地理・文化・歴史、あるいは理科・社会を加えるというのと同じようなこと。

○出井部会員 例えば、文京区であれば、そういうふうなことで、もうちょっと地域を理解することによって、社会性が出てくると思います。

○源部会長 というふうなということですね。これ、もしかしたら教育のほうにも関連するかもしれないですね。

○出井部会員 僕はそうだと思うんですね。だから、その辺が、頭でっかちになって、子どもが、今度ある程度中学校、高校になると矯正が効かないですよ。逆に言うと。小さいときのほうが矯正が効くと思います。それは何でかという、遊びが足りないから。

○源部会長 こういったものも含めて活動の中に。あと、活動として老人ホームの訪問とか。

○出井部会員 それは、中学校と老人ホームが併設されているのが、港区か何かにあるはずなんですよ、確か。やっぱりそういう一つの社会性というものを身に付けるのには、年寄りの意見を聞くとか、そういう会話を、コミュニケーションを多くするという機会が、それが一つの地域性であって、健全育成につながっていくんじゃないかということです。

○源部会長 だからもっと内容のところのご意見になりますね。ありがとうございます。

続きまして、子どもたちが安全に安心して暮らせる環境の確保というご意見でございます。

○弘世部会員 ちょっと続いてしまってすみません。それについては、どう言うんでしょうか。ちょっとここから受ける印象では物足りないなと思ったので、ちょっと感想というか、意見を言わせていただきました。

○源部会長 この3か年の方向性の中ということですね。

○弘世部会員 はい。環境の確保、しかもこの文章の中での地域ぐるみで子どもたちを温かく見守る取組というふうが続いているところを見ると、このステッカーだったり、見守りのほうなのではないかと思ったんです。安全に安心して暮らせる環境を整えるということの意味が、やっぱり場の確保、もっと積極的な場所の確保を具体的に進めていただきたいなということです。

○源部会長 この方向性へのご提案という。

○弘世部会員 例えば、目白台運動公園の解放、私の身近な場所を例に挙げさせていただくと、開放時間の機会を増やしていただくとか、時間を最大限延ばしていただくとかという具体的などころに及ぶといいなと思います。校庭開放についても、放課後の事業が始まって広がろうとしていますけれども、やはり子どもたちが満足してその場で遊べるという、場所の確保に一步二歩進んでいただきたいなという気持ちがしています。

○源部会長 すみません、タイムキーパーが早くしろと。

○弘世部会員 すみません。

○源部会長 ごめんなさい、じっくり本当はお話を伺って意見交換するのは、とても重要だと思っているんですけども、申し訳ありません。ちょっと飛ばします。

こちらはステッカーですね。ステッカーのアプリをつくる。あるいはステッカーに協力をしたら終わりというのでいいんですか。フォローアップしなくて。

じゃあ、お二人、どうぞ。長岡さんから。

○長岡部会員 子ども110番のステッカーが結構捨てられているという話を聞いていて、それならば、貼った数を指標にしてもらって、なおかつ、貼った場所を文京区のアプリをつくって、ここにあるよというのがいつでもどこでも見られるようにしてもらおうと便利かなという感じです。

○源部会長 なるほど。捨てられちゃうんですね。

○渡部部会員 邪推で申し訳ないんですけども、子どもたちが本当に危ないと思って、そこに駆け込んだのをなかなか想像しにくいんですね。実績ってあるんですか。

○長岡部会員 でも、小学校で回るんですよ、地域で。ここにステッカーを貼っていますと。おばちゃんを紹介してくれて、何かあったら入ってねというのは区立小学校ではやっているんです。年に1回。

○源部会長 さっき何か親御さんと一緒に回るとか言っていましたよね。そういうのでやっていますよね。

○長岡部会員 狭い範囲なので。

○渡部部会員 どちらかというと、ここにあるよと子どもたちに教えるのは、やられているのかもしれないんですけども、本当に危ないと思ったときに、そこに入るのかどうかがありますね。

○源部会長 子どもたちの意識ね。その部分というのはどうでしょうか。

それから、区立小学校PTAで協力者を増加させるのは厳しいです。マンションが多くなって

きているので。さっきマンションの話をしていましたけれども。

○長岡部会員 私は、昨年区立小学校の校外委員をやらせていただいたんですが、貼っていただいている方もだんだん高齢になってきたりして、ここに本当に来て大丈夫なのかということもあったり、マンションになってしまったりとか。

○源部会長 さっきの管理会社とか、法人の活用とか、そういうのがあるといいかもしれません。個人ではなくて。

○長岡部会員 個人ではなくて企業に働き掛け……。

○浅見部会員 増やしなさいと言われてるので、こちらはどうですかと言うのですけれども、ちょっと荷が重かったなというのがあります。

○源部会長 難しかったということですね。ありがとうございます。

次、こちらはb-1 a bの関係かな、b-1 a b利用者は区民のみなのでしょうか、あるいは、特定の人だけ参加することになるのでは、という参加者のことですね。ご意見が出ましたけれども、区民だけなんでしょうか。

○久住教育推進部長 違います。区内の学校であれば構いません。区内在住、在学という形にしております。

○源部会長 ただ、これをやると特定の人だけ参加することになるのではということですが。

○渡部部会員 実績が1万6,000人、1万4,000人というのは、区の中高生全体のうちの1万4,000人、1万6,000人が参加したことがあるんですか。それとも、日々の延べなんですか。

○久住教育推進部長 延べ人数です。

○渡部部会員 延べだとすると、何となく、いつも行く人がいつも行く、ということにならないかなというのが、少しあります。

○源部会長 リピーターがね。というところですか。

○久住教育推進部長 リピーターは非常に多いですね。

○源部会長 リピーターが多いことはいいことですがね。そこら辺の広がりということですね。

あと大学との連携、ごめんなさい、提携ですか。

○出井部会員 字が間違っていますね。

○源部会長 そうね、いいです、別に。

○出井部会員 特に大学が多いので、やっぱり中高生とかというのは、大学生とのコミュニケーションがしやすいんじゃないかと。そういう面では、東京大学の授業を受けるとか、そういうようなことというのはとてもいいんじゃないかと思います。大学は、東洋大学とかいろいろあるわけですから。

○源部会長 中高生。

○出井部会員 それのほうが受け入れやすいじゃないかと思います。

○源部会長 こちらには、b-1 a b以外に、青少年が自立や社会性を身に付ける機会が多くあることが大事、もう少し前広な施策に打ち出せないか。

○石倉部会員 先ほど幾つかご意見も出ているかとは思いますが、施策、これは当然、区が独自にお造りになった、多分全国的にもなかなか例を見ないb-1 a bという施設だと思うので、ここを指標にするというのは、すごく当然だなと思うんですけども、多分それ以外にももっともったいような形で社会性を身に付ける機会って本当はあるはずだと思います。そういったところをb-1 a bだけというふうに限定するのではなくて、区としてどういった機会を多く設けていくのかということも、やはり視点としては必要なと思います。なので、老人ホームという話も出ていましたし、それ以外の手法も一つちょっと施策として、もし展開しているようであれば、入れてもいいのかなというふうに思いました。

○源部会長 先ほども中村さんのほうからお話がありましたけれども、きめ細かな配慮を望みたいという先ほどのお話だったですね。ありがとうございます。

あと指標でございますが、年間400人は多い、少ないという、こちらは1の指標でしたか。

○渡部部会員 単純に、その400人という数字をどう評価したらいいのかが、わかりません。

○源部会長 ふれあいや社会参加の充実。

○渡部部会員 そうですね、少しよくわからなくて。400人くらいではという見方も多分あると思うんですけども、いやいや、こういうのに400人も、という考えもあると思います。

○源部会長 そうですね。それで分かりますね、評価は。やはり。

これは、一言だけお聞かせいただけますか。この400人という数字は、どういうふうを設定されたかというご意見だと思います。

○久住教育推進部長 9地区あるので、9地区の活動の参加状況を見ると、大体そのくらいが適当なのかなと思います。青少年健全育成会というのは9の団体でやっていただいているので、そこに関わると、そのくらいなのかなということですが、実績報告は出していただいているので、その数を入れてとといったところです。

○源部会長 これはですから、青少年健全育成会へのということですね、全体というよりも。だからそれだけでいいのかという議論は別にあるということですよ。

これは、先ほど言っていました、参画人数。

○弘世部会員 その指標のところ、参画人数ということなんですが、指標が人数でいいのかという、ちょっと疑問です。何か参画人数を増やすということに集中すると、何ていうんでしょうか、少ないとがっかりするとか、多いと喜ぶとか、でもそうではなくて、持ち帰ってもらうもの、内容なのではないかなと思うので、指標の参画人数ってどうなんでしょうか。

○源部会長 前回のアウトカムという言葉と同じだと思うんです。人数があっても、本当にそれによって青少年健全育成会等に参画した人たちがどう変化したかどうかということを見るべき

じゃないか、ということですね。わかりました。

二つございます。110番ステッカーを貼った数を指標にしたらどうかとか。

○長岡部会員 配った数ではなく、貼った数の評価をやったほうがいいのと思います。あと、これは何か最後の行に10件増加って、10%の間違いですか。毎年10件増加させるかと思ったので。

○源部会長 いや、10件なんじゃないですかね。

○長岡部会員 10件なんですか。

○久住教育推進部長 結構もう飽和状態であることは間違いありませんよね。

○源部会長 そうすると、あまり指標としてできることがないかもしれない。

○長岡部会員 でも今日、春日通沿いを見て、ステッカーを貼っているかなと思ったら、結構なかつたりするから、そんなに貼っていらっしゃいますか。

○源部会長 ちょっとこの指標の110番ステッカーの後ろの部分は、少し考えていただきたいですね。

最後に、青少年自身が地域に温かく見守られている実感があるかどうかの方が大事。青少年の方々にアンケート調査をしてはどうか。

○石倉部会員 そうですね、ごめんなさい。今回指標とされているのが、いろんな意味で地域に見守られているかというところが一つ、(2)で大事なんだと思うんですね。確かに、犯罪を抑制するという意味では、こういったステッカーというのは一つ大事なんだと思うんですけども、もう少しメンタルな部分で、やはり評価されたほうがいいと思います。やはり、青少年がターゲットになっておりますので、青少年の本人たちが、そういう温かい地域で見守られているんだという安心感を得るということが非常に大事だと思いますので、そういった指標も一つアンケートという形で取れるんじゃないかと思います。

○源部会長 先ほどのこちらと同じ考え方ですね。

○石倉部会員 そうですね。

○源部会長 ありがとうございます。ということで。

○久住教育推進部長 一つだけいいですか。青少年健全育成会については、今までが述べの参加者数で取っていたんです。1万3,816人なんですけど、今年は実行委員会とか企画の段階から関わっている子どもたちの数というので、いわゆる大人が企画をするだけではなくて、子どもたちもその実行委員に入ってもらう数のほうにシフトして、調整をしていけたらいいなというので、400人という数になりました。

○源部会長 それで参画という言葉ですか。

○久住教育推進部長 そうです。参加者はもう1万3,000人ほどを数えているので、実行委員会9地区の中でイベントをやるときの、何回かやっていたいでいるんですけど、その数です。

○源部会長 はい、わかりました。

○加藤企画課長 現行の基本構想実施計画の47ページにグラフが出ていますけれども、かなり増えていたと。

○源部会長 ということで、またいろんな意見をお伺いできましたので、最初の議題のこちらの青少年の健全育成というのはこちらで一応終了ということで、よろしゅうございますか。ありがとうございます。

それでは引き続きまして、分野別部会第3号という資料で、平成28年度基本構想実現度評価の実施状況についてです。こちらの子育て・教育のほうのご説明を、子ども家庭部長さんのほうからいただきまして、こちらのほうはもうカードを書きませんので、口頭で自由に言っていただければというふうに思います、お気付きの点を。よろしく願いいたします。

○椎名子ども家庭部長 それでは子育てのほうから、子ども家庭部長、椎名のほうからご説明させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

今週、28年度の指標についてはご議論いただいたところでございますが、それと同じものが継続して、27年度もあったもの、また足したものというのが、28年度出てきておりますけれども、27年度の実績についてご説明申し上げます。

分野別部会第3号の最初になります。A3の大きい資料を出していただければと思いますが、こちらの表ですけれども、28年度基本構想実現度評価表と書いてありまして、(27年度実績)とございます。

左のほうから見ていただきますと、左のほうの一番上のほうの段でございますが、1の現状と今後3か年の方向性、これは現在ここに記載されているものをそのまま転記したものということで、新たに今回ということになりますと、指標がどうなったかというような感じのご説明になってくるかというところでございます。

2というところで、指標がありますけれども、その上に一つ昨年度の基本構想実現度評価における今後の方向性ということも記載してございます。こちらのほうを子育て支援計画に基づいて対応していくというようなことが、去年の方向性として書いてあるというところでございます。

2のほうの指標を見ていただきますと、最初の1番目、「子どもの健やかな成長と子育て家庭の健康の支援」ということでございます。こちらのほうは、乳児家庭全戸訪問、28年度はこれにプラスして、妊婦の全数面接を挙げてございましたが、27年度まではその一つ目は乳児家庭全戸訪問の訪問率ということでございます。グラフのほうを見ていただくと、大体なだらかな感じになっているかと思っております。

まず2のほうを見ていただきますと、27年度のところ、網掛けになってございます目標値の87%に対して、86%、98.9%の達成率。取組のところを書いてございます。訪問実績は昨年100件を上回っておりますけれども、対象者数の増加が著しく、保健師による対応も必要となるケース、困難ケースも増加しているからということで、目標値を若干下回ったというのが

結果でございます。

その下が2番目でございます。「質の高い幼児期の保育・教育の総合的提供と保育の量的拡大」でございます。右の表のグラフを見ていただきますと、保育サービス量の事業量というふうに記載してございます。こちらのほうも数値を見ていただきます。こちらのほうは28年度4月現在も出てございますので、目標値が4,673人、これは保育所だとか幼稚園だとか様々なものを足し込んだ形の数字ということになります。実績値としては4,632人、99.1%、待機児童数としては257人ということでございます。

説明を下のほうにさせていただいております。子育て支援新制度に基づく取組ということですが、99.1%なんですけれども、内容を見ると、特に待機児のあるゼロから2歳児については計画自体は達成させていただいたというような形になっているということでございます。計画を達成しても、待機児が257人出ているというような状況というふうに考えていただければと思います。

右のほうを見ていただければと思います。三つ目が、「質の高い幼児期の保育・教育の総合的提供と保育の量的拡大」というところで、こちらのほうの指標としては、保護者満足度ということで、28年度の指標をご説明したのと一緒ということで、保育園や幼稚園の保護者満足度というような形になってございます。こちらのほうはかなり多く目標よりも大きな満足度が出ているというふうに見ていただければと思います。

4番目の指標としては「子育て支援の充実」ということで、右のほうのグラフを見ていただきますと、育成室の評価という形になってございます。これも27年度を見ていただくと、目標値のところと比べて実績値が上回っているという状況を記載させていただいているところでございます。

その下が評価という形になります。B評価、順調であるということなんですけれども、評価として指標が一つでも目標を上回らないのがあった場合には、Aにはならないという形になってございます。B評価という形になります。

その下が、中項目全体の成果・課題というようなところで記載させていただいております。文京区版ネウボラ事業の展開によって、妊娠期から切れ目のない支援、仕組みづくりに取り組んだというようなところ、また区立保育園の保護者さんのアンケートの中身を記載させていただいたというようなところでございます。

最後のところで、平成27年度重点施策として、待機児童解消対策としての取組もしたというところを、記載させていただいたというようなことでございます。

最後に右のほうの一番下でございますが、今後の方向性でございます。28年4月の待機児童数が昨年4月の132人を大幅に上回り、257人になったということで、今後も区独自の待機児童解消緊急対策を策定して、対策に取り組んでいるところでございます。また、保育園や幼稚園・学校・育成室との連携を深めながら、また地域社会全体での幼児教育・保育の質の向上を図



っていくというような方向性を示させていただくというところでございます。

以上でございます。

○源部会長 どうもありがとうございました。

こちらは昨年度の実現度評価ということでございまして、こちらをご覧になって、今年度の皆さん、区民協議会の部会員の方のご意見をいただきたいということでございます。

○加藤企画課長 ほかもあるので続けて説明して、次のページを。

○源部会長 三つあるんですね。申し訳ありません。

○久住教育推進部長 それでは続いて二つ目の項目です。2ページをお開けください。

子育て・教育分野の、「豊かな環境と人とのかかわりの中で、子どもが「個」として尊重され、共に学び合うまち」といった将来像に対してです。こちらについては、前回ご議論いただいた指標との関係も含めて、実績を記載してございます。

「自ら学び考え課題を解決する子どもの育成」については、先ほど議論いただきましたけれども、国語と算数の理解度についてです。小学校は100%、中学校が98.3%で、今後も各学校で作成をした授業改善推進プランというのを作っておりますので、そういったところを進めて、学校・家庭・地域が一体となって学力向上を図っていきたいと思っています。

「体力・健康の推進」では、幼稚園ではお茶の水女子大学と、そして小学校では順天堂大学の協力をいただいて、その方向性、プランを作っておりますので、中学校については専科の中でということをお前回ご説明いたしました。体力・健康の増進については、記載のとおりとなっておりますので、今後ともこれらの実践を深めながら向上を図っていきたいと思っています。

それから右の欄の上に行きまして、「個が輝き、共に生きる教育の推進」ということでは、前回指標の中でもご議論いただきました、こちらは区立学校児童・生徒の不登校出現率になっていきます。残念ながら、小学校では30人程度、中学校では60人程度ということで、増加傾向を示していて、こちらについては100%を達成いたしませんでした。引き続き、子どもたちがちょっとした変化を伴うように進展をしていきたいと考えています。

「豊かな人間性の育成」については、人の役に立つ人間になりたいと思う項目については記載のとおり、103.8%と94.6%、95.7%と92.8%でした。評価といたしましては100%と100%を下回るものが混在をしているということで、Bの評価になっていきます。

今回の成果や課題については、小学校では、東京都の体力・運動能力結果を踏まえた体力向上プランを作成して、引き続き体力の向上を図っていきたいと考えてございます。そして、共に学び合うための特別支援教育担当指導員を配置して、特別支援教育の校内体制の整備や充実が課題になっていきます。

6の今後の方向性については、小学校では、この夏に小学校で電子黒板が配置を完了いたしますので、全ての小・中学校で電子黒板による配置、それからデジタル教科書の配置等を完了してまいります。また、タブレット型端末を導入してICTを整備をすることで、アクティブラーニ

ング等の環境を整えていきたいと考えてございます。

また、共に学ぶ学習環境の充実を図っていくことで、全小学校に特別支援教室を設置してまいります。

おめくりいただいて、青少年の項目です。こちらについても、今いろいろご意見もいただきました。ふれあいや社会参加の機会の充実については、103.6%。これは、参加者としていますので、27年度は103.6%。それと、社会を明るくする運動を行っていますので、そちらの参加人数をここで求めて、達成率として97.3%でした。

それから、地域の見守りの子ども110番ステッカー事業の協力件数については、残念ながら100%を達成いたしませんでしたので、引き続き努力をしていきたいと思っています。

それから、青少年プラザの参加者等については、ここに記載のとおり、169.4%、141.3%ということで、かなりいい結果が出てございます。引き続き、中項目全体の成果や課題については、こちらに書いてありますように、b-1 a bについては、出会いの場所と手厚いサポートに満足しているなどの意見がありましたので、引き続き充実をした取組を行っていききたいと考えてございます。

それから、自主性や社会性を育むために、青少年のニーズに即した事業を継続して展開していきたいと思っています。

6の今後の方向性ですけれども、先ほど青少年健全育成会だけではなくて、様々な団体が活動されていますので、各団体の特性を生かし、より時代に即した事業を展開することによって、更なる事業の充実を図っていききたいと考えています。また、b-1 a bでの活動については、中高生のニーズにより則した展開をしていきたいと思っています。ご議論いただきました子ども110番についても、より一層子どもたちが安全かつ安心して暮らせる環境を地域で整えて一助にしていきたいと考えています。

ご説明は以上です。

**○源部会長** ありがとうございます。それでは、三つ一遍にどれでも、実はあと12分で終わりますので、ご意見をいただきたいと思っております。今ご説明がありましたように、指標に関しましては、今後3か年の指標と同じものが結構、ほとんど同じだと思います。少し新しくなっているものもありますので、ですから指標の議論というのは、また新たにありましたら、またお願いしたいんですけれども、もう出ているものに関しては、そういったことにつなげていきたいなと思います。

多分、3の評価というところですね、成果とか課題とかですね、そこら辺はまたこういった形で見るときに、皆さんのほうからご意見もあるかなという感じもいたしますが、自由に何かご意見がございましたら、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

**○中村部会員** 先ほど、出させていただいたカードは没になっていたようなので、私が言いたいことは。

○源部会長 すみません、没にしたわけではありませんので。

○中村部会員 まとめさせていただきたいんです。子どもを持つということは喜びであると同時に、不安ですよ。私自身も子どもを持って、喜びと同時に不安も思いました。その一つは、やっぱり子どもが中高年になったときの精神的な問題なんです。親ですから、私も。やっぱり勉強してもらいたいわけです。そして、非常におかしな部分ですけども。申し訳ないことを言った、本を読みなさいと。1ページを読んだら1円、当時のお金で1円です。お金をあげるから、100ページ読んだら100円あげる。こういうことはやっぱりよくなかったですね。全然言うことを聞かなかった。何を一生懸命読んだかという、うちの息子は時刻表でした。時刻表を読むことによって、地理感覚、どこからどこまで何時間掛かるかとか、そういうことを子どもの興味に準じてやったことがよかったのかな。それなりの高校と大学を出ていますから、やっぱり基礎的なものは個人の好みというか、親があれ読め、これ読めなんて言ったって、読みやしない。ということから、私はあえてはっきり言います。子どもを信頼することです。これが、こうやっているんなことをなされていくことの中で、基本的に一番大事なことは、どんな状況にあっても子どもを信頼する。そうすると、子どもは親に信用されているんだなということが、本当に心の支えになるらしい。そのことを私は声を大にして言いたかったのです。と同時に、先ほど没になったと失礼な言い方をしましたが、友達をつくれと。友人をつくるということは、自分自身のためと同時に、その交わりに中から人間として成長していく、これは私が極端なことを言えば、大学で勉強することは、基礎的に大切なこと、と同時にそこで与えられる友人、それが永遠、生涯の宝ですよ。私は、それは大切なことだと思う。ですから、こういう制度によって、行政によって、いろんな事務局がしてくださっていること、大いに活用しながら、友達をつくり、それで自分自身が親によって信頼されているということを確認すること、この二つさえあれば、絶対困った子どもにはならないと思うので、私の拙い体験から言わせていただきました。

○源部会長 ありがとうございます。ごめんなさい、没にしたわけではなく、失念してしまいました。

○中村部会員 ひがみですから。

○源部会長 もう一度言います。自信を持たせること、何であれ友人をつくること。今おっしゃったことですね。子どもを信頼することということも含めて、いろんな活動を通して、つながりとか友人とかを持って行って。

○中村部会員 どうも失礼しました。

○源部会長 ということだなと思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。何かこちらの実績。弘世さん何かありますか。

○弘世部会員 子ども110番は大分意味があるのかなとか、やっぱり10件ずつ増やしていくのは難しいんじゃないかなと思うんですけども。

○源部会長 子ども110番。

○弘世部会員 確かに、一度貼っていただいたのを取り消される方って少ないと思います。駆け込まれた時、いざという時に不在ではどうかと気にはなりますが、あのマークのあるおうちのおばちゃんの顔を1人でも覚えてくれたらいいかなと思っています。前に一度、児童青少年課と児童館と、駆け込み110番のおうち、警察が協力して悪い人の役も立てて、駆け込みの練習をしました。

○長岡部会員 区立幼稚園でもやっています。

○源部会長 貼ることということは、貼った人の意識にも影響を与えるということと、それが広がっていくと地域のそういう考え方になっていくということですね。

○弘世部会員 そうなんです。外からの人は、そういう地域なんだって思ってくれるといいかなと思います。やたらと貼ってあるというのは、効果が薄れるのか高まるのかわかりませんが、悪い人が外から入ってきたときには、意識の高いまちなのかなと思ってもらいたいなというふうには思っています。

○源部会長 今のご意見は、こちらで言うと青少年の健全育成の中項目の地域での見守りのところだと思うんですけども。

○弘世部会員 ちょっと先ほどから、実際意味があるのかなとか、難しいなという意見があったので。

○源部会長 あとは、今もう一つおっしゃった、いろんなNPOであるとか、区立幼稚園もそういう訓練だとかそういうのをやっているとか、つまり行政だけではなくて、地域でいろいろやっているということによって、ある効果、アウトカムが生まれるんだみたいなところも、この中でこういうところに、区との連携とかそういうのもあるんですね。

○弘世部会員 貼りっ放しではないんじゃないかなと、ただ見えてきにくいですけども。

○源部会長 協働ですね。ありがとうございます。

他に何か別のことは。

○石倉部会員 よろしいでしょうか。いい意見が出た後で、ちょっとこういうお話をするのは大変申し訳ないんですけども、今テーマとしてはこの28年度の実績のこの評価表についてどう議論するかという話だと思うので、ちょっと2点ばかり、辛口のコメントをさせていただきたいと思っています。

まず1点目は、総じて課題の評価が甘いと。要は、分析と原因の内容をちょっと詰め切れていないんじゃないかなというふうに思います。例えば、この一番最初の子育て支援の①の場合は、要はその目標に対して、実績がこれ年々減っていつているんですね。じゃあ、それは原因がどこにあるのか、区としてはどう具体的に次の施策を打っていくかというところの内容がこの文章を読む限りでは、伝わってこないと思うんですね。もっと、もっと考えるべきだと思うんです。なんでこういう実績しか取れないのか。実は、答えは書いてあって、上の取組状況のところ、要は対象となっている方が増える一方で、いわゆる保健師さんなり、そういうケアする、できる

人自身が確保できないというのが多分一つの要因なんだと思うんですね。じゃあ、それに対して、区としてはどうするのか。増える対象者を減らすわけにはいきませんので、例えば保健師さんを増やす施策を打つ、若しくは、そうでない別の施策を打つということを考えなければいけないと思うんですね。そういったところが、課題を読む限りは伝わってこない。密接な連携に努めるとしか書いていないんですね。漠然としています。そこをもっとやっぱり原因を突き詰めた上で、じゃあどう効果的な施策を打つべきかというのを是非書いていただきたいと思います。

同じようなところで、ちょっと非常に気になったところが、教育のところの③ですね。これは指標が今回異なっているので、何とも言えないんですが、不登校の出現率というところで、特に中学生の率が尻あがりというんですが、右肩上がりに増えているというところを区としてはどう捉えているのか、何が原因なのか、ここをもっと突き詰めるべきだと思います。

あと2点目なんですけれども、その総合評価のABCランクのランク付けがあるんですが、これの中身を見ると、全てが100以上だとA、全てが100を下回っているとCということで、実は幅広くBという評価が取れちゃう指標の設定の仕方になっているんですね。これ非常に甘いと思います。甘いです。どれか一つ100%を上回っていれば、全部Bでおさまるという形になるんですね。なので、これはこれまでずっとこういう指標でやってきているので、今回はしようがないと思うんですけれども、一つご提案なんですけど、実は、点数化、いわゆる定量化できる方法というのがあります。思うに、一つの施策に対して、多分重みが違うんだと思うんですね。例えば、この子育て支援だったら、①から④まで施策がありますが、この中でも非常に区民がこれを重視している、若しくはこれを何とかしてほしいというのがあると思うので、例えば、これを点数化して重みを、ウェイトを付けて、その成果が良ければ高い評定になる。若しくは、逆に悪ければ、悪い評定になるという分析手法があります。これはご紹介しますが、AHPという階層分析法というのがあります。こういったものを一つ取り組むことによって、来期以降、具体的な点数になって評価できるということも検討に入れていきたいというふうに思います。

以上です。

**○源部会長** ありがとうございます。大きく分けて2点でございますね。

1点目は、課題があるとしたら、原因が何かということを中心に分析した後に、そしてその後どういう取組にするかという、そういう流れが見えてこないということですね。この2の最後のところに成果・課題ってありますが、何かいきなりジャンプしている感じは確かにございますよね。

それから、二つ目は、このBという、ABCのランキング。確かにそうですね。ほとんどBだと思いました。いろんな手法が、評価にはございますので、今おっしゃったような重み付けというのは、一般的に結構使われていることだと思います。ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。何かお気づきの点。あと2分。すみません、何かございましたら。何でも結構です。はい、どうぞ。

○渡部部会員 子育て・教育の子育て支援のところで、総事業費、右半分の平成27年度予算に比べて、平成28年度の予算が減っている理由がちょっと知りたいんですけども。

○源部会長 子育て支援のところの総事業費が減っている理由。一言お願いします。

○椎名子ども家庭部長 子育て関係の評価はいろんな事業があつて、相当多くのものを足し込んだ数字にはなっていますが、やはり大きなところを考えてございまして、実は平成25、26、27年とこちらのほうは保育園等の耐震改修とかの工事、そういったものが億単位で入っています。数億円。そちらのほうは、28年度はなかったという部分からかなり減っているということなんですが、ほかの事業一つ一つを見ると、かなり増加しているほうが多いというような状況でございます。

○源部会長 よろしゅうございますか。ありがとうございます。

ほかにもいかがですか。あと一つ、二つ。はい、どうぞ牛嶋さん。

○牛嶋部会員 今のに関連しますけれども、やっぱりハードとソフトを分けないと、結局サービスなのか、そういう改修なのかというのが、ちょっと前からそうなんです、建物を建てたとき、教育センターを造りましたみたいなときに、予算がボンと上がったりしています。なかなか要するに事業費の部分が、サービスが増えているのか、増えていないのかというところがあまり反映してこないというところで、その辺は分けられないかなということです。

○源部会長 分けて提示したほうが分かりやすいんじゃないかということですね。ご提案でございます。ありがとうございます。

あとほかにもございますか。よろしゅうございますでしょうか。

出井さん、何かおっしゃりたそう。違いましたか、ごめんなさい。

○出井部会員 教育の中の体力・健康の推進というのがありますよね。何か数値が低いのかななんて、目標が。50%ほどで。逆に言って、もうちょっと学びというよりも体力増進のほうが将来的には、政治家を見るとよくわかると思うんですね。体力で勝負している。

○源部会長 何とも言えません。

○出井部会員 結局、要するに、今はもやしみたいなお子どが多すぎる。ちょっとしたら骨折しちゃうとか、もうちょっとそういう体力というので、實際上授業を削っちゃって、体育の時間を減らして、逆にほかの授業を多くするというより、体育の授業を1時間、2時間増やしてやったほうがいいんじゃないかなと思います。じゃないとちょっと幾ら勉強ができる子どもといっても、体力がないと続かない。

○源部会長 では、その内容のご提案ということで。

それでは、時間もきましたので、こちらの基本構想実現度評価表についてのコメントは、終了させていただきます。ありがとうございます。

三つ目の議題でございます。平成28年度まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理についてのご意見ということで、まずこの戦略についてのご説明をお願いいたします。

○加藤企画課長 はい。私のほうから、このまち・ひと・しごと創生総合戦略がどういうものかということ、最初に説明させていただきたいと思います。

こちらの冊子をご覧くださいませでしょうか。こちらのまち・ひと・しごと創生総合戦略、茶色い冊子ですね。よろしいでしょうか。

1枚開けていただきまして、はじめに、というところがございますので、まず背景を説明させていただきます。

国では、少子高齢化への対応、また人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目的として、「まち・ひと・しごと・創生法」を制定しました。この法律では、各自治体にまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定することとして、努力義務が課されております。文京区におきましても、人口の現状分析、また将来の展望等を示した上で、それが人口ビジョンという形になりますが、それを示した上で、今回このまち・ひと・しごと創生総合戦略というものを策定しております。

こちらの計画につきましては、27年度から31年度までの5年間の計画になっております。こういった背景で今回この計画が作られております。

また、6ページをお開きください。人口の現状の分析と将来の展望を踏まえてという形になります。こちらのほうにグラフが二つ、図表7と図表8がありますけれども、将来人口の推計になっております。これも6月の区民協議会のときに若干説明させていただきましたが、左側のところが生の将来推計、右側のところにつきましては、出生率を1.4まで上昇させた場合に、このような人口の構成になるだろうということを示させていただいております。

左の表で行きますと、総人口が32年でピークになりますけれども、その後、減少という形になりますが、出生率を1.4まで上昇させた場合につきましては、右の表、42年、ここがピークになりますので、総人口についても若干後ろにピークが下がるという形で、人口の減少が緩やかになるというような推計になっております。

また、8ページをご覧ください。こちらの計画の位置付けですが、下のところに図表がございますが、基本構想のもとに基本構想実施計画、今回検討していただいている実施計画がございます。こちらにつきましては、現計画が第2期の計画で、26年度から28年度までの3年間、またこれから作っていただくのは、第3期の計画で、29年度から31年度までの3年間の計画になっております。こちらの文京区のまち・ひと・しごと創生総合戦略は27年度から31年度までの5年間の計画になっておりますので、現計画の2年目から、2年、3年と、あとこれから作る計画の3年間、ちょうどこの基本構想実施計画と総合戦略のほうか、かぶるような形になっております。ですので、基本構想実施計画との整合が取れるような計画ということで、基本構想実施計画の中でも、特に、まち・ひと・しごと、これらに関係するものをこちらの総合戦略のほうで掲げさせていただいているという状況です。

10ページの方をお開きください。こちらのほうに、基本目標、基本的方向、また右のページ

に具体的施策と書いてありますけれども、まち・ひと・しごと創生に関するものということで、特に子育て支援、高齢者福祉、産業振興、観光交流、こういったものを基本的な目標としてピックアップさせていただきまして、それについて具体的な施策をぶら下げているような状況です。これが全体像です。

また、本日席上に置かせていただきました別紙と書いてあります、差し替えをお願いしました、まち・ひと・しごと創生総合戦略評価表、A4横の表になります。こちらが、具体的に今回検討していただく内容になりますが、今回ですと、子育て支援・教育という形になりますので、こちらをずっとページをめくっていただきますと、子育て支援から始まりまして、高齢者福祉、産業という形で、先ほどの分野と重なるような形で、各分野ごとにこの表を作っております。子育て支援を含めて、四つの分野の表を示させていただいております。

また、基本目標、基本的方向、その下にありますが数値目標ということで、こちらで言えば、子育て支援の実現のために、具体的な数値目標として、将来的に目標を立てて計画的に実施していくということで、こちらの表が作られております。

例えば、出生数に占める第二子以上の割合という形になっておりますけれども、現計画が27年度からの計画になっておりますので、27年度の数値、また29年度から31年度まで、これから作る計画で整合を取って作っていきますので、そこでまた数値が徐々に入ってきます。最終的には、31年度に両方の計画が終わりますので、そのときの目標値として44.4となります。こちらは、単年度ごとの数値をこういう形でトレースしている形になります。

また、具体的施策として、よりこの目標を達成するための施策をその下にぶら下げておりますが、こちらにつきましては、具体的事業の真ん中辺り、右のほうに書いてありますけれども、累計値を示させていただいております。26年度、計画をつくる前には3件あったものが、27年は6件となります。累計していきまして、31年度には13件になるような形で目標を立てております。具体的な内容については、各所管のほうから説明させていただきます。

概要については、以上です。

**○源部会長** はい、ありがとうございます。

そうしましたら、子育て支援のほうですか、ご説明いただけますでしょうか、保健衛生部長さんから。

**○石原保健衛生部長** 保健衛生部の石原と申します。よろしく申し上げます。

それでは、まち・ひと・しごと創生総合戦略評価表の1の子育て支援の中の具体的施策の中の①でございます。ぶんきょうハッピーベイビープロジェクトからご説明を申し上げます。

この事業は、子どもを望む全ての人が安心して子どもを産み、育てられるよう、区民自らの主体的な健康維持・増進に向けた取組を支援するとともに、妊娠・出産等に関する正確な情報提供をしていこうということによって、少子化対策の一助となるように推進していくというものでございます。



具体的な事業ということで、三つの事業を挙げておりまして、一つは、ぶんきょうハッピーベイビー応援団会議ということで、これは民間の複数の部会員の方々より、様々なご提案をいただいております。そのご提案いただいたアイデアについての実施件数ということで、26年度からスタートした事業でございます。26年度3件のアイデアについてご提案をいただき、そして、27年度更に3件ということで、累計値でございますが6件ということになっております。目標の31年度までに13件を目指すというものでございます。

2番といたしまして、自身の身体の健康づくりや妊娠・出産に関する正しい知識の提供ということで、啓発用冊子の配布冊数ということで、指標にしております。26年度以降、複数の冊子、大人向け、あるいは中学生向けの啓発用の冊子を作っております。26年度の配布件数が5,200冊ということです。27年度更にそれに6,100冊を追加いたしまして、累計11,300冊ということになっております。31年度の目標が25,000冊ということです。

それから、その下、3番目でございます。ハッピーベイビー健康相談の相談件数。

○源部会長 大変申し訳ないんですけども、時間が限られているので。

○石原保健衛生部長 はい。ハッピーベイビー健康相談ということで、妊娠・出産に関する相談をしております。目標の件数はご覧のとおりでございます。

それから、文京区版ネウボラ事業ということで、ネウボラというのは、フィンランド語で「アドバイスの場」ということでございます。妊娠・出産・子育てにわたる切れ目ない支援を行っているということでございます。

この事業は、27年度からスタートしております。ネウボラ相談ということで産前・産後・子育ての相談、それから宿泊型のショートステイ事業ということで、出産後体調が悪くなった方につきまして、一次的にショートステイができる事業を行っております。それから、サタデーパママタイムということで、これはお子さんをお持ちのお父さん、お母さんが集まる場、交流の場ということで、事業をやっております。それぞれの目標値、KPIについてはご覧のとおりでございます。

以上でございます。

○源部会長 すみません、ありがとうございました。

○椎名子ども家庭部長 続きまして、数値目標の三つ目の待機児解消のところに関係するというところで、平成27年度は待機児257人と出てございます。こちらのほうの257人は大変な数字でございますけれども、よく新聞なんかで出る数字というのは、文京区で大体257人とは出ないで、98人と出ます。それは、育休に入っている方については除くような形で、新聞なんかでは統一的にやられているケースが多いというふうにご覧いただくとよろしいかと思っております。

これに対する対策というのは、裏面のほうのページの下の方の3番になります。私立認可保育園の開設を中心とした待機児童対策ということで、目標は42園ということで、先日も議論がございましたが、私立だけではありませんけれども、私立を中心に対策をしていく。今現在35園

まで来てございまして、更に上積みをしていくというような形で、今緊急対策をやろうということ  
ころでございまして。

以上でございまして。

○源部会長 ありがとうございます。

それでは、今ご説明がございました、まち・ひと・しごと創生総合戦略評価表ということに関  
しまして、皆さんのほうでご意見あるいはご質問等がありましたら、よろしく願いいたします。  
いかがでしょうか。

○渡部部会員 子どもを保育園に入れることに非常に苦労した身として、ちょっとお話ししたい  
んですけれども、待機児童数を5年以内に解消する、31年度の目標がゼロで待機児童が増えて  
いるということは、多分31年に達成できないんじゃないかと思うんですね。達成できないこと  
を何となくみんなわかっているような空気があるように思うんですが、それについてはどうお考  
えなんでしょうか。

○椎名子ども家庭部長 257人出てきた段階で、その以前からでもあるんですけれども、全庁  
的に緊急対策ということで、様々に取り組む、もちろん私立認可保育園が中心になりますが、そ  
れだけじゃないような手法も含めて、今現在取組を進めて、更に進めようとしているところでご  
ざいまして。5年以内にゼロと書いて、5年以内にゼロは当然とまではちょっと言いにくいんです  
けれども、毎年度ゼロを目指していくというのを合わせて考えていくというところではござい  
まして。なかなか難しい道ではあるかと思いますが、やっていこうというところではござい  
まして。

○渡部部会員 何となく、そのジレンマとして、保育園を増やしても、増やして待機児童を解消  
すると、更に流入してどんどん増えていくというスパイラルに入っていくと思うんですけれども、  
それについてはどうですか。

○椎名子ども家庭部長 先日の議論の中で、例えば、待機児童をゼロにすることを指標にしたら  
どうかとありましたが、一度ゼロにしてもその関係でゼロのところは、転入が多くなるというこ  
とは当然考えられるかと思いますが。待機児童は様々な要因、また人口の関係で出てくるという  
ことがございまして、今言ったことは当然私どものほうで念頭に置きつつも、やはり待機児童を無  
くしていくような施策を強力に推進していきたいというのが立場でございまして。

○源部会長 常に目標をゼロに掲げつつということですね。

○椎名子ども家庭部長 常にゼロにしていこうというのがございまして。

○出井部会員 待機児童解消の手なんですけれども、保育所をバンバン造っても、なかなか人手  
との割合で、今、小学校とかそういうところは空いているんじゃないですか、結構。今は1クラ  
スカ2クラスですね、小学校って。そういう面で小学校に保育所を併設しちゃったらいんじゃない  
かと思いますが。

○牛嶋部会員 小学校は、今結構クラスが増えつつあって、足りないところがぼつぼつ出てきそ  
う。

○源部会長 文京区はそういう状態ですか。

○牛嶋部会員 中学校は多分空いているところは空いている。

○出井部会員 じゃあ、中学校で。要するに、造るんじゃなくて、逆に空いているスペースを生かしていくという方法は、そこに併設するほうが優しいと思うんですよ。造れば造るほど、またそこに比重がかかって、予算ばかり掛かっちゃうという。今日も読売新聞に書いてあったんですけども、介護、それから医療には、40兆円、50兆円かかると、要するに、子育てには1兆円も予算がないというふうに書いてあったんですね。ですから、もうちょっとそういう面で、もちろん就労を長くするということもあるわけですが、逆に言って、造るんじゃなくて、併設してやるというふうな考え方も、空いているところを、そういうふうを持っていったほうが予算的にも低減されると思います。

○源部会長 既存の施設を使ったらどうかということですね。

○出井部会員 それである程度、それを逆に言って。保育士の、今日も書いてあったんですけども、給料が全然安いと。70万人いるそうですね、保育士をできる人が。あまり給料が安いので、確か30歳で19万円ぐらいじゃないかと、平均月収が。ほかの人は30歳だと約27、28万円もらえる。10万円ぐらいの差がある。

○源部会長 既存の物の活用とかのアイデアがございましたので、ちょっと取組としていただきたいと思います。

○椎名子ども家庭部長 先ほど全庁的と言ったところは、中には様々な教育機関にあるとか様々なものを含めて、協議をしながら私どものほうとしても進めていきたいというような形でございます。それと、保育士の関係では、例えば、文京区独自の保育ママ制度、ほかのところがないような家賃補助なんかもやりながら、今までなかなかやってもらえなかった人もやってもらえるような、そういった仕組みも今つくりながら対応させていただいているというところでございます。

○源部会長 対応しつつということでございますね。ありがとうございます。

時間がちょっと来てしまいましたので、こちらにつきましては、3か年の計画にも関係すると思いますので、また今後ご意見をいただける機会もあるかと思っておりますので、こういう総合戦略が進んでいるということで、共有させていただければと思います。ありがとうございます。

それでは、最後ですが行財政改革の審議でございます。

政策を実現するための行財政改革（職員体制、財政運営、オープンデータ化の推進等）についてということです。

初めに、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

○加藤企画課長 私のほうから、最初に説明させていただきます。

こちらの基本構想実施計画の1枚、2枚おめぐりいただきまして、目次のところをご覧ください。目次と書いてありますところです。ちょっとページは振っていないんですけども、2枚目

辺りになります。目次と茶色く書いてあるところです。

こちらですが、計画全体の体系、現計画の体系になっております。また、次期計画も大まかに言えば、この体系の中で作りたいと思っております。

こちらは、今まで検討していただいている分野、1の子育て・教育から4のまちづくり・環境まで、四つの分野を検討していただいております。ただ、各分野ごとではなくて、分野横断的なことがやはり政策として必要になりますので、それがⅢのところの行財政運営という形の分野になっております。

これは、その四つの分野全体を下支えするような分野になっております。第2回区民協議会の勉強会のほうでも、財政や職員の状況を、こちらのほうから説明させていただいて、ディスカッションしていただきましたが、そういった全体に関わるような部分について、今回検討していただくと思っております。

この部会は、子育て・教育ということですがけれども、その分野に限らず、全体的な分野ということとして、広く検討していただければと思っております。

私からは、以上です。

**○源部会長** そうしますと、資料といたしましては。

**○加藤企画課長** その後、部長のほうから資料についての説明がありますので、よろしくお願ひします。

**○吉岡企画政策部長** 企画政策部長の吉岡でございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、今日もご議論いただきました分野別部会資料第2号の厚い冊子、今後3か年の方向性と指標のほうです。その資料の一番裏のページが64ページになります。1枚めくっていただいて、63ページをご覧ください。よろしいでしょうか。

63ページの上のところに、5の行財政運営と書いてあります。これは、1から4番目が今、加藤課長のほうから説明いたしました、それぞれの分野ということで、5番目が行財政運営ということで、ここは1から4番目のそれぞれの分野を下支えする基盤になる行財政運営についてということになります。

将来像といたしましては、ここでは四つ掲げてございまして、心の行き届いたサービスを受けられるまち、だれもが区政を身近に感じ、参画できるまち、だれもが使いやすい公共施設のあるまち、信頼される行財政運営を推進するまちということで、四つの将来像を掲げてございます。この将来像を実現するために、裏のページですがけれども、64ページとして、現状はどうなっているのかと、今後3年間の方向性というのを記載しております。前回の区民協議会でも財政運営については、ご説明をいたしましたけれども、現在、皆様からいただいております特別区税や財政の状況に応じて都から交付される特別交付金などの一般財源は、増加の傾向にあります。区の収入の中で、一般財源が平成26年度の決算で67%になっておりまして、それらが堅調であるということで、区民サービスの向上に適切に対応しているというふうにご覧いただけます。

しかしながら、一般財源といいますのは、社会経済の状況ですとか、税制改正の影響を受けやすいということがあります。直近であれば、リーマンショックのときにもやはり特別区税というのはかなり減少したという実情がありますので、景気に大きく左右をされるものであります。

また、少子高齢化の進展に伴いまして、子どもさんが増えると保育園の運営費などが増える。また、高齢化になりますと医療の関係の経費ですとか、高齢者施策の経費が増えるということになりますので、それらのいわゆる社会保障関係経費というのは今後増加が続くというふうに想定をされております。

将来的には、少子高齢化で生産年齢人口、15歳から64歳までの人口が減っていくというところが懸念されておりますので、より今後とも、一般財源を初めとする財源の確保というのが必要になってくるというふうに思っております。

また、公平性の観点からは、税負担の公平性ですとか、サービスの公平性の観点から、皆様が施設を利用していただくときに払っていただいている使用料などについても、適正化に取り組んでいくということが必要だろうと思っておりますし、世代間の負担の公平性という観点から、今まで積み立てていた基金ですとか、あと借金になりますが、後年度の負担も適切に活用することで、バランスのとれた財政基盤を構築して、持続可能な財政運営を今後とも図っていく必要があるというふうに思っております。

先ほど、人口構成の変化が今後起こってくるという話を差し上げましたけれども、それによって様々なサービスの内容も変化してまいりますし、区民の方々が区に求めるサービスの内容というのも変わってくるかと思っております。多様化する区民ニーズに対応していくということと、区民サービスの更なる向上を図っていく必要があると思っております。

もう一つが、区政の透明性の確保というところでは、この区民協議会もそうなんですが、区民委員の方々が参画をしている審議会などの会議については、前より参加の率を拡充していくことですとか、新たな行政評価の仕組みですとか、前回も大杉会長からご説明がありました、オープンデータを調査・研究をすることで、前より区政の透明性を担保していこうというようなことを考えております。

また、職員については、現場主義の職員育成や職員の仕事の進め方、働き方の見直しを行うことで、前回の行財政改革推進計画でも掲げております、品質志向の区政運営というのも今回の実施計画の中でも、引き続き推進を図っていきたいと思っております。

最後に、公共施設やインフラの関係ですけれども、区では様々な施設を持っております。また、道路や橋梁というのも区道は区が管理をしておりますので、それらについての維持管理コストというのは、今後増大をしていくというふうに見込まれております。それらの適切な管理をすることはもちろんですが、中長期的な視点でそれらに係るコストを平準化するですとか、なるべく抑制を図っていくとかということで、今後とも財政運営をしまいたいと思っております。

また、それによって、区民サービスの質や求めるものが変わってきますので、公有地ですとか、

区有施設の有効活用というのも含めて図りながら、今後3年間の方向性としていきたいというふうな内容でございます。

以上でございます。

**○源部会長** ありがとうございます。今ご説明がありました、分野横断的なものとして、行財政運営に関して、自由に皆さんのほうからご発言いただきたいんですが、今のご説明のように、持続可能な財政運営、あるいは区民サービスの向上、あるいは品質志向の区政運営等々が今後3年間の重点的なものとして挙げられているということでございます。どうぞ、ご自由に何かお気付きの点、ご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

**○出井部会員** 最後のほうなんですけれども、公共施設等、インフラの老朽化というのですが、今、公共施設というのが、案外民営化されているという例があると思うんですよね。例えば、仙台空港が今度は民営化するということです。ですから、例えば、シビックセンターの駐車場を東京ドームに運営させたらいいんじゃないかと、要するに。そうすると、もうちょっと時間を長く使える、夜10時までしか使えませんよね。例えば、そういうようなことで、管理を民営化してもらって、ある程度そのコストを減らすということ、それで、ほかにお金を回すというようなことは考えられないか。

**○源部会長** 考えられないかと。

**○出井部会員** 老朽化というの、いわゆる建築屋さんと提携するとか、工法を変えるとか、そういうこともあるんじゃないかな、地元の建築会社とか、あと大手とかということで、そのテストケースで耐震をやってもらおうとか。そういう意味で、ある程度維持管理というのと、それから思うんですけれども、道路がやっぱり安全ということで、蓄光ってありますよね。ふだん昼間は、例えば白線とかあいうものを引いてあるところは、蓄光で基本的に光を吸収して、夜になると明るいと。要するに、そういう面の安全性とか、この前うちにも来ていた、本当は出さなきゃいけないんですけど、道路のフラットじゃなくて何でしたっけ。

**○吉岡企画政策部長** バリアフリーですか。

**○出井部会員** バリアフリーというのもちょっと難しい面もあるんじゃないかなという気もしちゃうんですね。もう既に歩道が高くて、じゃあ車道を上げるのかというようなことを考えると、本当にフラットっていいのかなと思います。バリアフリーということがね。もうちょっと最初から構造がバリアフリーにできているのなら問題ないと思うんですけれども。かえって、お金が掛かっちゃうんじゃないかと。もう一つ難しいのが、構造上の傾斜で水が流れるようにするとか、そういう面のもうちょっと根本的な設計というのを考えないと、お金ばかり掛かっちゃうんじゃないかなと思います。

**○源部会長** 多分、二つ今ありました。もしあれでしたら、お答えを。一つは、こちらに行財政運営に係るんでしょうかね、民営化という話とかがございましたが。

**○吉岡企画政策部長** そうですね。管理の部分については、今も指定管理者制度ですとか、委託

ですとか、維持管理というのは、区が直営でやっているということはほとんどないんです。民間の会社に委託できるものは委託するし、運営全体を指定管理者にお願いするものは、先ほどのb-1 a bは委託をしていますし、今度新しく建設した文京福祉センターも、事業者指定管理をお願いしていたりしますので、その辺で効率化を図ってきているというのはあります。

あと、バリアフリーの関係ですと、今も工事をするとき、車道を上げたりしています。歩道との段差を少なくして、なるべく歩きやすいフラットな、それはセミフラット構造といいますけれども、自然傾斜を考慮した関係で道路を造っているというのはあります。それぞれの地域地域の実情に合わせて、年に何件かそれぞれ道路工事をやっていますので、それは引き続き同じようにやっていきたいと思っています。

○源部会長 ほかに、ご意見どうぞ。

○石倉部会員 今のご質問に関連してなんですけれども、戦後日本のインフラ整備というのは、かれこれかなりの投資が行われて50年以上たってきていると思います。実は、国も同じような悩みを抱えていて、国としてのインフラがかなり老朽化してきている。でも、財源がないという話が実は非常に深刻な問題となっています。そのような中で、新しい動きとして、アセットマネジメントというような検討が実は国のほうでは始まっているという状況です。マネジメントをする上で非常に重要となるのが、区としていわゆる固定資産の管理がどこまでできているか。つまり、どういった資産が幾ら投資されていて、それがどの程度償却されているのか、こういったところの実態をある程度把握していかないと将来的にどれだけの投資の金額が必要になるのかという試算が実はできないという話が一方であります。

これは、質問なんですけれども、今、文京区でのそういったインフラの固定資産台帳とか、そういった整備というのはどの程度進んでいて、将来の予測において、維持管理コスト、投資に係るコストというのは、どのくらいというふうな資産をなされているのでしょうか。この辺りを教えてください。

○源部会長 いかがでしょうか。

○加藤企画課長 国と同様に、地方自治体も同じような課題を抱えていて、マネジメントのために、まず先ほど言われてたような基礎になるデータですけれども、来年度、再来年度に向けて、新公会計という形で、全ての資産について洗い出しをしています。また、今年度、例えばお金が一気にここでかかるということがあればそれを平準化していったりとか、あと資産をどうやって減価償却も含めて管理していくかというマネジメントをする、こちらの計画も合わせてそれと並行して今作っております。

○石倉部会員 ありがとうございます。

○源部会長 そのほかにいかがでございましょうか。

○中村部会員 先ほどから、ご説明の中にちょっと矛盾を感じているのが1か所あります。それはどういうことかということ、区内の商店を盛んにしたいということ、中小企業を初めとして、そ

れをうたっておられました。しかし、どうも再開発とかいう名目で、大規模なビルを建てて、例えば、この区役所前もそんなことになるそうですけれども、そうするとそこに入るテナント料も高いし、なかなか中小企業の方々が入り切れない。何とかな、大規模ならば資金的にも入れるんでしょうが、中小企業はちょっと無理じゃないかと思います。ということばかりやっていて、それで区内にもあちこちにシャッター商店街が増えていきますね。これはちょっとどうにかならぬかなというのが、私が矛盾を感じたことです。文京区だけで解決する問題じゃないことはよくわかっているんですけども、コンビニとかスーパーとかああいうところばかりが盛んになる。代々お店を守ってきたいろいろな商店の方々残念ながら閉店していくという、具体的に何軒も知っていますので、これは何とかならぬのかなという今のご説明の中で矛盾を感じたことです。

**○源部会長** 大企業に利するような開発ではないかというそういうご指摘、ご視点がございまして、地元元々ある中小企業の……。

**○中村部会員** 先生、簡単に言いますとね、インフラ整備というのは、これは大変お金が掛かる。それをやった上で、ディベロッパーか何か大きいマンションなんかを建てると、何をやっているんだろうなと正直思うときがあります。

**○源部会長** そういうところの配慮もしていただきたいという。

**○中村部会員** はい、そうです。

**○源部会長** ありがとうございます。

こちらの行財政改革につきましては、この後の区民協議会全体会でもやっていくんですね。もう少しもちろん議論を皆さんと一緒にやっていくものだと思います。

こういうふうな3か年の方向性があるというのを、まずこの場では共有させていただきまして、また今いただいたようなご意見もまた踏まえながら、更にまた意見交換することができると思いますので、今日のところはこちらのほうで終了させていただければというふうに思います。

**○牛嶋部会員** 一ついいですか。やっぱり今日の話だと、あまり資料とかがなくて、ちょっと何を言っているかわからないところがあったので。そのオープンデータとかに関しても、何が足りていて何が足りていないのか、税収とかに関しても、例えば、人が増えるのがいいのか、企業を誘致するのがいいのかとか、そういった資料とか、方向性に関しても、じゃあどういうまちを目指す、要するに企業が一杯来るようなまちを目指すのか、そういった方向性というのもいろいろあってもいいかなと思います。都心部は都心部なりの役割があると思うので、やっぱりちょっと郊外とはまた役割が違っていいと思うので、そういったことがわかるようにしていただくと、もうちょっと議論しやすいかなと思います。

**○源部会長** 今日は、私はその入口の部分だというふうに理解しております。

**○加藤企画課長** この部分は分野横断的に関わることなので、更に具体的なものは、区民協議会全体会の中でお示しして、検討いただく予定ですが、その前に各分野でまずはちょっとご意見をざっくばらんなどところでいただくという趣旨です。



○源部会長 今、牛嶋さんのご指摘などもいただいた上で、またいろいろ資料を提示したいというふうなことでございます。よろしゅうございますか。

○出井部会員 もう1個いいですか。区議会議員の給料ってここから、区の予算から出ているんですか。

○吉岡企画政策部長 当然そうです。

○出井部会員 じゃあ、次に質問します。

○源部会長 それでは、駆け足で大変申し訳なかったんですが、ちょうど終了の時間になりました。今日いただいたご意見は、ただいまの行財政運営もそうですけれども、今後の区民協議会全体会のほうで、皆さんのいただいた意見に所管部の方のご意見も踏まえ、示していくという、そういう流れになっております。ですので、これで終わりということではございませんが、そういった意味で、ちょっと時間が詰まって申し訳なかったんですけれども、まずはこういうふうな方向性、施策というのに対して皆さんと共有して、また更なる意見を、議論を深めていくとそういうふうな第一歩として捉えていただければ大変有り難く存じます。

本日をもちまして、子育て支援、教育、それから青少年の健全育成ということで、こちらの部会全て終わっております。2回に渡りまして、本当にどうもご協力ありがとうございました。進行がちょっと押せ押せで申し訳なかったんですが、ありがとうございました。

それでは、事務局のほうにお返しいたします。

○加藤企画課長 熱心なご議論をありがとうございました。子育て・教育部会は本日の2回目で終わりですが、あと三つの分野の2回目がありますので、その三つの分野の2回目が終わった後に区民協議会全体会があります。全体会の予定ですけれども、8月17日、水曜日になります。また改めて通知のほうはお送りさせていただきますが、8月17日、水曜日、6時半からということで、予定のほうをよろしく願いいたします。場所につきましては、24階の第一委員会室、こちらになりますので、よろしくお願い致します。

冊子につきましては、置いていっていただければと思いますので、よろしくお願い致します。

以上になります。

○源部会長 どうもありがとうございました。

それでは、これをもちまして、部会のほうを終了させていただきます。

改めまして、どうもありがとうございました。